

## 第51回島根県総合開発審議会

日 時 令和元年8月27日(火)

10:00～12:00

場 所 島根県職員会館多目的ホール

○事務局 それでは、まず、開会に先立ちまして、今回の審議会から海士町漁業協同組合の亀谷潔代表理事組合長様に委員に御就任いただきましたことを御報告いたします。

また、島根県町村会の石橋前会長にかわりまして、新会長に就任されました下森博之会長に委員に御就任いただいておりますことを御報告いたします。

○会長 皆さん、おはようございます。

それでは、ただいまから第51回島根県総合開発審議会を開催いたします。

開催に当たりまして、まず、丸山知事から一言御挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いたします。

○丸山知事 皆様、おはようございます。本日は、お足元の悪い中、また、大変お忙しい中、本審議会に御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

前回の審議会では、島根創生計画の骨子案につきましてお示しをさせていただき、非常に概略のものでございましたけども、それに対する御意見を頂戴したところでございます。

続いて、市町村長さん方からの御意見ですとか県内の7カ所、7地区で行いました、県民の皆さんに向けた公聴会といった手続、それから私の、審議会と別途に行っております車座トークですとか女性活躍100人会議といった、いろんな場でさまざまな御意見をいただきましたので、そういった御意見を踏まえまして、今般、お手元でございますこの島根創生計画の素案を取りまとめたところでございます。前回に比べますと分量若干ふえまして、逆に読みにくくなっておりますけども、ポイントをかいつまんで、事務局のほうから御説明をさせていただきたいと思っております。

まだまだもっとこうしたほうがいいんじゃないかとかというお話があろうかと思っておりますので、本日も忌憚のない御意見をぜひとも頂戴できればということで、長時間になりますけども、お力添え頂戴したいと思っております。本日もよろしくお願いたします。

○会長 どうもありがとうございました。

ただいま丸山知事からお話がありましたように、本日は島根創生計画の素案について皆さんからの御意見を伺うことになっていきますので、よろしくお願いたします。

本日は、県農業協同組合の石川委員、日本労働組合総連合会島根県連合会の成相委員、県連合婦人会の藤田委員、県商工会議所連合会の古瀬委員、山陰中央新報社の松尾委員、県社会福祉協議会の室崎委員、県医師会の森本委員が御都合により欠席です。

また、県市長会の松浦委員、町村会の下森委員は公務のため欠席ですが、オブザーバーとしてそれぞれ吉山常務理事、今岡常務理事に御参加いただいております、全体では計9名の委員が欠席です。したがって、計15名の委員の方が御出席であり、審議会規則第4条第2項の規定により、委員の半数以上が御出席ですので、会議が成立していることを御報告いたします。

○会長 それでは、会議次第に従いまして、議事を進行させていただきます。

まず、事務局から、議事の島根創生計画の素案につきまして説明をお願いいたします。

○事務局 （資料に沿って説明）

○会長 大部にわたる資料につきまして、簡潔な説明をいただきました。どうもありがとうございました。

それでは、意見交換に移りたいと思います。

先ほど事務局からありました説明を踏まえまして、島根創生計画の素案につきまして、皆様方の幅広い御発言をお願いしたいと思います。

なお、会議の時間は12時までを予定しています。できれば今日御出席の委員全員から御意見を頂戴したいと考えていますので、お一人様当たり3分をめぐりに御発言いただければと思います。

前回は名簿に従いまして全員の御発言をお願いしました。もし漏れがあるといけませんので、今回も名簿に従って、御発言をお願いします。よろしくお願いたします。

○委員 実は先月で地域おこし協力隊は卒業して、今はちょっと島で、週末起業でお店を小さく始めたところなんですけど、普通の島民になりました。

前回の会議を踏まえて、持ち帰って、家で考えたりとか島の人たちともちょっと話題に上げて話したりもしてたんですけど、そんな中の会話で、いろんなそういう施策とかがありますが、細かいところはちょっと拾い切れなかったりもするので、何か島根の強みみたいところで、何ていうんですかね、がつんとみんなに響く何かみたいところの話とかの中で私が印象に残ったのが、島根県っていうネーミングが、やっぱり漢字が島で根っこっていう、日本自体が島国っていう規模の中で、島根県はやっぱり島の根っこ、ルーツとか根っこの足元の部分を何か支える県になればいいよねみたいな会話がすごく印象的で、

派手なこととかも、もちろんそういうのもやりたいとか目立ちたいとかも気持的にはあるかもしれないけど、やっぱり移り変わりのものを追うよりも、どんと構えたものを何か、島の漢字で、島の根っこって漢字の成り立ちとかもちょっと見ながら、そういう話をしてたんです、島の人たちで。

何かそうなったときに、じゃあ、目指すところとか、何ていうんですかね、意識的に見るところはやっぱり本質的なところをどうしても探っていくと、きっとあんまり、そういうのって何ていうんですかね、本質のところをちゃんと本当に見れないと、きっといろいろがごちゃごちゃ混乱していただけたと思うので、落ちつきながらみんなで、知夫村は今いろいろ人口増加とかIターンが活発にはやってて、数字的に見たら全国、分母が少ないんで人口増加率で見るとすごい奇跡の今、数字になってるんですけど、そこで浮つくんじゃないかって、じゃあ、そこからっていうところの会話とかもしてて、そうですね、何か出産とか、そういうのとかも全て根っことか始まり、子供ちゃんの人材育成とかもやっぱり始まりとかスタートの部分のところ、農業もきっとそうだしとか、やっぱそういうところを、何か強い島根だったらすごい魅力的なんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

なお、今日は、丸山知事が御出席頂いていまして、直接知事さんと意見交換をしたいとの思いもあるかと思いますが、知事や県の事務局から特に発言があれば伺いたいと思いますが、今日は基本的に皆様方の意見を頂戴するという事で進めていきたいと思ってますので、よろしく願いいたします。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 失礼いたします。個別の具体的な政策についてという形ではございませんが、一般的なところでちょっとお話しさせていただきたいと思いますが、非常に幅広い施策が盛り込まれてらっしゃるなというのがやっぱり、国の施策からもありますので幅広くやってらっしゃると思いますし、これが総じて島根県の今の課題であり、これを解決するための策というふうなものが今まとまっているものだというふうに思っているのがありますが、やはり例えば制度的なもの、あるいはインフラですとか、そういったような施策でありますと、これは誰がこういうふうにしていくんだというのがすごくよくわかって、こういったことがあるとやっぱり島根県もよくなるなというのがすごくよかった点が1点ある分と、反面、いろんな地域課題を解決する上で、これ、誰がやっていくんだらうなというふうに思うの

がやはり施策の中にございます。

そういった意味では、こうやって皆さんも来ていらっしゃるんで、各地域の皆さんが力を合わせてやっていく施策だよというふうには理解はさせていただいておるんですが、実は、要はそういった、この課題をやっていかなくちゃいけないけど、この地域にはこの課題を主体的にやってくれる人がいないんだよっていうような地域がもしかしたらあるんじゃないかなというふうに思っておりまして、そういった意味では、幅広い施策ではありますけども、例えばやってくれる方がいない、あるいはこういった施策よりも、たくさんあるけども、この施策をこの地域では主体的にやっていきたいとかっていうような形もあるんじゃないかと思っておりますので、これをやはり各地域でどうやって成功させていくか、あるいは要は動かしていくかっていうことをしっかりと各地域ごとで対策を練っていかなくちゃいけないし、あるいは選択をしていかなくちゃいけないというところが一つあるんじゃないかなと思いました。

先ほど別の方からもお話もありましたけども、各地域ごとにやっぱり環境も違ってます。それが島根県の一つのよさだと思ってるんですけども、これだけ幅広い施策なんですけども、これを各地域が特徴を出すため、あるいは強みをさらに発揮するために活用するような形でやっていけば、本当にすばらしい、要は計画になるんじゃないかなというふうに思ったとございます。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 お願いいたします。

47、48ページのU・Iターンの促進や関係人口拡大について、少し感じたことをお伝えいたします。

江津市は、NPOが主体でビジネスプランコンテストを10年前から行って、移住を前提とした創業支援を行ってまいりました。過去10年間の中で創業者のほうもふえて、雇用の拡大にはつながっています。今回の取り組みのUターンとIターンを分けて取り組むってことはとても重要なテーマかなと思っておりまして、そもそもIターンとUターンで関心度が違いますとか実家の空き家の問題ですとか、そういった、結構、表に出てない問題についてもぜひ情報提供であったり、相談の窓口を引き続きつくっていただければと思います。

関係人口の話なんですけども、ちょっとこの文章を見る限り、かなり移住を前提にして

いる関係人口と読み間違えないかなとちょっと今、懸念をしております。この関係人口という言葉も10年前にはなかった言葉で、これが新しい概念でして、国も施策には今ありますけども、5年後、この関係人口についてどのような位置づけになっているのかは、かなり慎重に扱わなければいけないんじゃないかという話を江津のメンバーとはしています。

恐らくこの施策をつくる皆さんもおわかりだとは思いますが、結果的に移住になったらいいけれども、例えば3,000人関係人口がいて、じゃあ、その結果、何%が移住になったらいいよね、じゃあ、移住に結びつかなかったらこの関係人口自体も意味ないよねというふうにならないでほしいなというのが委員としての気持ちです。

よく言われる関係人口の5ステップみたいなのがあって、無関心の状態から、例えば特産品を買ったりとか、その後、リピーターになって訪問したりとか観光客になって、最終的には移住になるかもしれないんですけども、その最初の訪問をするまでのステップを丁寧に図ってほしいなと思ひまして、移住の動きはもうU・Iターン促進のほうでしっかりあると思いますので、どう関係人口をつくっていくかのところのステップに丁寧なかかわりを期待しております。

あと、もう一つ、今いろんな取り組みを江津の中でもする中で、関係人口という言葉は使っていないんですけども、こういった地域とのかかわりしろをつくることで、じゃあ、遠隔でのテレワークの推進ですとか、島根県でつくったものを東京で売るときに東京の方の店舗を借りて販売するとか、やはり関係人口の取り組みはそこが一番の強みになるかと思っています。多様な働き方の促進のためにも、この関係人口は非常に重要なテーマだと思いますので、引き続きいろんな取り組みを支援していただければと思います。以上です。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、次は私ですが、高等教育機関の立場で少しお話しさせていただければと思います。

この素案の、19ページにあります、取り組みの方向の①の下にあります、先端金属素材の取り組みですが、内閣府の交付金事業を島根県が申請し採択されました。この取組では、大学、高専も大きな役割を担っております。今後とも島根県からの御支援をぜひよろしくお願いしたいということと、将来目指すところは、国に頼らず、企業と県と大学がそれぞれ協力し合い、事業を自走できる形に持っていくこと、もっと言うと、企業からの寄附金だけで教員を雇い、それから研究をする、開発をする、そこまで持っていくのがこの

事業の目標だと考えています。かなりハードルは高いわけですが、皆様方の御理解をいただきまして進めていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力をよろしく願いいたします。

その中で、人材育成が大学・高専にとって大きな使命となっております。そのためには、県内の優秀な高校生で金属関係の分野を学びたい方に多く島根大学に入学していただきたいと考えてます。金属素材の分野は、高校生の興味が薄いとも伺っていますが、女子高生を含めて、多くの優秀な高校生に島根大学に進学していただきたいと考えてますので、よろしく願いいたします。

それから、24ページの人材確保についてですが、これから人口が減ってきますと、生産人口も減ってくるわけですね。その状況の中では、リカレント教育が非常に重要になります。今までですと、リカレント教育というと生涯学習のイメージが強く、教養を高めるための講座というイメージですが、これからは現役の社会人がスキルアップを図ったり、また次の職に就く、また、例えば女性が結婚、子育てして、少し職場から離れた後、もう一度新たなチャレンジをしていただくための新しい知識や技能を習得していただく、それが今、求められてるリカレント教育と考えています。これにつきましても、大学としてはしっかり取り組んでいきたいと思っておりますが、一方で、例えば今、勤めてる方がリカレント教育を学ぼうとすると、時間的制約、それから経済的理由でなかなか大学に来られない状況もあります。大学に長い間・時間来ていただくのは難しいので、60時間での履修プログラムでリカレント教育を提供したいと考えています。これにつきましても、県、それから企業の皆様方とも協力し、また支援をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、内容、経済的負担や時間的制約等について今後、議論させていただければ喜ばます。

次は、44ページの地域を担う人づくりということで、県立大学では入学者に対する県内の高校卒業生の割合を50%以上に、そして、県立大学の卒業生の50%を県内に就職するという高い数値目標を設定して取り組み始めたこと伺っています。島根大学は、国公立大学という枠組があり、地域に特化した入試の取り組みはしにくい状況ではありますが、卒業生の県内就職については、それなりの数値目標を設定して、積極的に取り組みたいと考えています。特に県外から学生をいかに県内に就職してもらおうのか、このハードルの高い取り組みについてしっかり取り組んでいきたいと考えてます。これにつきましても、また皆様方の御協力、御支援をよろしく願いしたいと思います。

その際、県内企業の魅力というものをしっかり発信していただくことも重要かと思えます。それから、経営者の方をお願いしていきたいのは、学部の卒業生だけでなく、これからは大学院の修了者につきましてもぜひ積極的に採用を考えていただくようお願いします。大学からのお願い一方になりましたが、以上のことを考えてますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、続きましてお願いいたします。

○委員 本日、この島根創生計画の素案のほうをお示しいただいて、全体的に幅広い分野でいろいろ計画がされてて、すばらしいなというふうに感じていますが、私がちょっと特化した領域の、看護職という職の団体ですので全体的なところはなかなか細かくは見れないんですけれど、一番最初の7ページ、8ページあたりのところの総合戦略の推進という序文のところでは理念が書かれてて、人口減少に歯どめをかける、県民の希望をかなえるということが書かれております。そして、数値目標、8ページに書かれていますが、長期目標、それから目標値っていうところが、前半の人口減少に歯どめをかけるというようなところに対してはこういう評価、数値目標を掲げてますけど、後半のところですね、県民の希望をかなえるっていうところは、何かしらもう少し評価できるような目標とか、評価はなかなかしにくい部分ではありますけれども、そういったところは、県民の希望っていうところに対しては少し何かあったほうがいいのではないかなというふうに感じたところです。本当に前回のお話の中でもあったように、女性が子供を産む数だけが目標値であったりっていうところが少しいかなものかなっていうふうに感じました。

あと、ところどころの中にも、市との協議とかいう言葉は出てきています。これだけの計画ですので、先ほど皆さんおっしゃってたように、やっぱり島根県、いろいろ地域によって事情が違うので、やはり県と市町村行政との連携、それから関係団体の連携というようなところがこの計画を推進するためには非常に大切なので、今後はそういったところをより関係者と協議しながら進めていける計画だといいいかなというふうに感じました。中身のことで具体的なおところは無いんですけど、以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 失礼いたします。私は、保育所のほうに勤めておりますので、ちょっと保育所の現状についてお話をさせていただきたいと思えます。

保育所のほうでは、今、少し外国人の子供さん方の受け入れというのが、問題という言

い方はおかしいんですが、ちょっと今までとは少し違った対応のところでは苦慮しておるところで、子供たちの仲間がふえるということはとてもありがたいことで、うれしいことなんです。ただ、外国のお子さんというのはやっぱり言葉も、それから今まで過ごしてこられた生活環境も、それから命をつなぐ一番大事な食事の面についても、日本の子供たちとは違います。来られたお子さんも、それから今まで保育所にいる子供たちも同じように保育のサービスを受けられて、同じように充実した毎日を過ごすためには、やはりそこに少し支援をする人材を現場に入れていかなければなかなかその対応が難しいというのが現状です。なので、外国のお子さんを受け入れている保育所に対しては少し何らかの助成があったりしますと、雇用とかも広がりまして、ありがたいかなと思っているところです。

それから、44ページのところで、今度は全然保育とは関係ないんですが、地域を担う人づくりのところ、地域リーダーを育てるといようなお話もありました。やはりその地域リーダーが生まれることによって、いきいきと楽しく過ごす大人の姿を地域の子供たちが見ます。あんな大人になりたいとか、僕もそういう、私もそういう地域を担える大人になりたいなと思ってくれることが、また地域に帰ってきてくれることにもつながるかと思いますので、その部分で地域に生きる者としてはしっかり頑張っていかなければいけないなと思うところなんです。やはりどうしても空き家があったり、また空き家だけではなくて、土地そのものをおいて県外に出ておられる方がとてもたくさん見受けられるように思います。そういう場合には、なかなか地元に住んでいる人間は出ていかれた方に連絡をとることが難しかったりするんですが、県のほうから市郡の行政のほうに対しまして、そこら辺の土地自体を、税金は納められているかもしれないんですが、そのままにしておられる県外の方々に対して連絡をとっていただいたりとかするようなことをしていただくと、その地域に住む者はその地域の土地を有効に活用できたり、またその景観等も整えたりできるかなと思っておりますので、そこら辺もお願いできたらありがたいと思っております。とても細かい行き届いた計画を本当にありがとうございます。よろしくお願いたします。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いたします。

○委員 失礼します。

まず、島根創生計画の表題にもありますけども、「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる」というこのキーワードに沿ったというか、島根のこの規模感ですよ、



それを大切にしたい、それぞれが網羅されている、そういった素案になっているなど思いながら見せていただきました。

特に高等教育機関の活用というか、島根大学さんで取り組まれているような地域貢献型の入試の設定とか、島根県立大学の高校との連携ですとか、農業大学の今後の活用ですとか、高等教育機関と地域の実情と学校をマッチしたような取り組みになっているというのが、今まさにこれから大学進学を控えた息子を持つ親としましては、非常にありがたいことだと思っております。息子の進路については、親としても、できれば自分の進学、その夢の先にこの島根とか隠岐があるようにというふうに願っているんですけども、そこら辺に沿っていく形で県立大学さん、島根大学さん、そのほかの高等教育機関さんがいろいろな動きをしてくださっている、そういう流れの方向に向かっているということはあるありがたいことだなというふうに思っています。

隠岐の島町には水産高校がありますけれども、隠岐の島町の基幹産業を支える学校として、非常に地域でいいポジションにあります。地域に開いた教育をしております。でもその中で、やっぱり高校生だけではなくて、地域対象というか、漁業者さんの免許更新ですとか、それからわざわざ島外に出ていかないと取れなかった特殊免許に対する講習ですとか、そういったことも数年前から行われているそうです。地域に根差す高校生を育成するという場でもあり、また企業支援という方向にもつながっているということで、高等教育機関というか、そういった場の新しいあり方だなというふうに感じています。何か、島根の教育のシステムとして、高等教育機関と地域、地域企業とか、そういったところがうまく連携していくようになっていくといいなというふうに感じながら、素案をぺらぺらと見ておりました。

あと、もう1点、きのう、委員さん何名かとお話しする機会があって、美肌県というのが非常に話題に出ました。最近、島根は美肌ナンバーワンということで話題にはなっていて、温泉も多くて、恐らくそういう流れで美肌県というふうな形だと思ったんですけども、何というか、ご縁の国というそのイメージが非常にいい形で定着しているということと、あと、地域資源の豊富さというか、隠岐に暮らしていてもダイナミックな自然と歴史とがあり、なおかつ、ご縁の国ということで、いろんな意味合いで島根にはいろんな魅力があると、神話の里であったり、神楽だったり、それから歴史的な背景、ストーリー性とかですね。そうすると、そこら辺の、ご縁の国押しというか、あと、地域の魅力をもう少し掘り起こしての観光の押し出し方があるのかなというふうに、隠岐に暮らしている者と

しては思ったりしながら見ていました。済みません、まとまりませんが、以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

○委員 私は産業界から参っております、最近の産業界の環境は、どんどん変わってきております。一つは、御存じの人多いですね、最低賃金がどんどん上がっていきんですね。これは確かにマクロ経済の立場でいいますと大事なことなんです。ところが島根県の中小企業にとっては、大きな障害になっているという問題が一つあります。

それから、来年から始まります働き方改革、これは大企業にとってはそう多くできるでしょうけども、中小企業の皆さん方にとっては大変な大きな障害なんですね、これもまた。今までは、人手不足ですから、長時間で実は生産性上げるってものができなくなりますから、ですからその生産性を上げていかないと生き残れないとかで、これはどうするかという問題が一つの課題なんですけども、一つはやっぱりデジタル化を進めるっていう問題。しかし、デジタル化を進めるっていうけども、今、服部先生言われましたように、IT技術者がいないんです、逆に言うと。今、島根県のIT業界もITの専門家を採ることでできませんから、普通科の人間を採って、みずからの会社でいわゆるITの技術者を育ててるんですね。私たちの会社もそうなんですけども、普通科を入れて研修させて育てるんですよ。それしか道がないんですよ、もう。ですから、これをどういうふうに育てるか。今言われたように、リカレント教育とか再教育ですね。そういういわゆる学校教育じゃないけども、社会人教育の場を広げていただいて、これが大事なことだと思います。

特に、中国は今、人手が足りませんので、外国人のベトナムの派遣会社と組んで、ベトナム人の高度人材を採ろうとしてるんですが、これも限界がありまして、高度人材とありますが、ハノイ大学とか、ハノイ建設大学が、あるいはベトナムのいわゆる優秀な大学卒業生を採るというわけですね。これを今、進めてるんです。県内に入ってきました、ある程度。しかし、この話はいいんですけども、こればかり採るといっても限界がありますから、普通の人間を採ったときには、どうしても日本語教育したり技術教育をしなきゃならんんですね。

私たちが今危惧してるのは、人口減少で何が一番不足かといいますと、技術者の不足が一番大きいんですね、やっぱり。建設業においては、建設技術者がいなくなる。あるいは製造業においても技術者がいなくなる。これをどうするかという問題が大きな課題なんです、逆に言うと。ですから、とにかく好むと好まざると、そういう人間をみずから育てて

いきながら実は産業振興をやっていかなきゃならないという、島根県の苦しみだと思えますね、やっぱりこれは。その辺がこれから大きな課題になると思います。

そして、もう一つの問題は、ある大企業が入ってきて、町の人間を根こそぎとっていくという、この現象もあるんです。大企業入ってもらうことは、確かに県民の立場からすると就職ができるからいいんですけども、いわゆる産業界からどんどんとっていきますからね。ですから、みんな恐らくもう廃業するか倒産に追い込まれるんですね。それで、我々も何とかして技術者を確保する対策ないかということで苦慮しておりますけども、しかしなかなか良薬がないものですから、やはり1つずつ一歩から振り返って、一歩一歩、そういう人たちをやっていく。

ただ、ことしちょっと若者の意識が変わったんじゃないかと思えますね。この前の2,000万円問題、生涯の。ことし、私なんかも、大分入ってきました、入りたいとか言うんですよ。何かと思ったら、やはり若者が技術を見つけて、自分たちの将来を自分たちで開こうという、そんな感覚が若者の気持ちに入ってきたみたいですね、やっぱり。ですから、いや、入って勉強したいと、これは普通科の人間に多いですけどね。今まで私が見たのも、実は高専が入ってこなくなったんです。高専はみんな飛び級か何かで、今度は大学に行っちゃう。東工大行ったとか、優秀ですから。ですからもう普通科の人間とか、そういう人間を採って、みずからの会社で育てながら会社の社員をふやす以外、道がないんですね、やっぱり。その辺はぜひ行政の立場でそういう人たちを育てるような、リカレント教育で、社会教育ができる再生教育ができる体制をぜひつくっていただいて、もちろん私たち今おる人間にも、実はITのことを教えて、いわゆる生産性を上げたものをデジタル化をしていかなければならないという、そういう課題がありますので、そのことを知事さんにぜひお願いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きましては、お願いいたします。

○委員 失礼します。

いろいろ読ませていただいて、まずなんですけど、地域公聴会のほうなんですけど、私、雲南のほう参加させていただいて、まちづくりとか興味のある友人たちも誘って出たんですけども、すごく大事な、地域でもこういう会を開いてくださっているということに、みんなとても喜んでいて一方で、たまたま私がこちらに出させていただいたので、伝えることができ参加できたんですけども、それがなかったら知らなかったねっていう

ところで、もっと知りたかったし、もっと興味のある人はいたんじゃないかっていうことが一つありました。

あと、公聴会の場っていうのが、どうしても時間が限られる中だと思うんですけども、いわゆる学校形式の並びで話をして、手挙げ方式ということで、限られた時間で、どうしても意見を話せる人が少なかったんですね。できれば、ワークショップのような形式でたくさんの方の意見を出せるような運営っていうのも今後考えていただけると、参加しやすいんじゃないかと思いました。あと、ぜひそういう場ときには託児をお願いしたいと思います。友達の子供をあやしながら、私参加してたんですけども、やっぱり女性活躍とかっていうことが言われる中で、大きくどおんと出されることも大事だとは思いますが、細やかにいろんな場面で女性が普通に参加できるように、子育てしながらそういったことに楽に参加できるようにしていただけると、より実際のところで女性が活躍できる環境になっていくんじゃないかなと思いました。

それと、定着、育成の課題っていうのがやっぱりあるという中で、地域おこし協力隊のほうでなんですけれども、U・Iターンで移住するというハードルをくぐり抜けて移住して来た人たちが定着しづらい状況っていうのが、やっぱり続いております。そういった人たちの中で話されるのが、Uターン、Iターンまではすごく手厚く、いろいろ面倒を見てもらったり様子を聞いてもらえたりするんですけども、いざ来ると結構ほったらかしだねっていうことだったりとか、いざ来てみると言われていた状況と違うというところで悩まれたりとか、そのことが結局島根から離れていく、しかもその離れていく際に、島根への印象を悪く持って離れていくっていうことが生じるのが、すごくもったいないと思っています。やっぱりUターン、Iターンというふうに分けて考えてくださるようになったことすごくいいなと思うんですけども、その先に定住、定着というところをどうしていくのか。例えば定住という言葉自体も結構ぼんやりと使われていて、どうだと定住とみなされるのかということも、はっきりしてないところがあると思うんですよね。例えば、島根県としては定住というのはこういう状況を目指してますというようなものがあるとわかりやすくなったり、より定住に向けて、地域が、島根が2回選ばれるような状況になったらいいなと思います。

あと、済みません、もう一つ、美肌県のこと、観光のことなんですけれども、自分自身エステティシヤンの仕事をしてた時期もあったりとかで、興味のあることではあるんですけども、観光としてっていうとちょっと疑問を感じました。美肌ということで、何てい

うんですか、女性のコンプレックスに触れる部分でもあると思うんですよね。なので、興味のある方はおられると思うんだけど、女性の見た目というところに触れるのをどんどこう押してしまうのは、どうなのかなというのはちょっと思っています。観光でいうと、やっぱりこれまでの御縁っていうところがあって、自分自身、島根の観光の課題として感じているのが、やっぱり出雲大社とか松江城とかっていうところまでは来る人すごく多いと思うんですけれども、そこから奥へどう魅力を伝えて奥のほうに行けるようにするのかっていうことがすごい大事なんではないかなと思ったときに、美肌というテーマだとしてもその部分から離れられないというか、表面のところだけになってしまう感じがして、ちょっと済みません、残念な気持ちと、ちょっと心配な気持ちにもなりました。済みません、以上です。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

○委員 私からは、2点意見を述べたいと思っております。

まず1つ目が、女性活躍推進についてです。私、働く女性きらめき応援会議というものに発足時からかわらせていただいているんですけれども、女性活躍ってということと出生率アップというのを同時に目標として掲げるっていうのに、すごく難しさを感じています。出生率を上げるためもありますけれども、ぜひ男性の育児休業取得の推進というものに取り組んでいただけたらと思います。今後、国の施策としても、近い将来なのか遠い将来なのかわかりませんが、男性の育休取得というのは義務化になっていくんじゃないかと思いますが、女性活躍推進の先進県になると島根県は目標に定めておりますので、ぜひ他県に先んじて、男性の育休取得というのに取り組んでいただけたらと思います。例えば、うちの会社の女性社員は、やっぱりいつ子供のことで休むかわからないので、業務の効率化というものをせざるを得ません。そのために、社内では申し送りが大変しっかりしていて、全体が連携をとれるような体制をつくっています。こうすることで、無駄も省いていくということも大切ですし、仕事の属人化を防ぐということが企業の中で推進されていくと思います。男性が育休をとるためには、やはり業務の引き継ぎというものもしっかりしなくてはいけないと思いますので、このことが全体的な働き方改革というものにつながるのではないかと思います。これが出生率のアップにつながるかどうかというのはわかりませんが、でも、ですが、何よりも男性にもかけがえのない子育てという限られた時間を経験していただきたいなというふうに考えています。

2点目ですけれども、ふるさと教育ということです。民間の立場として採用活動をしている中で、経営者仲間と話すところで、やはりふるさと教育ってすごく大事なんじゃないかなという話になりました。小・中では、うちの子供も行ってますので、ふるさと教育というのを知ってるんだなというのがわかりますけれども、どうも高校生になると、やっぱり大学受験であるとか、普通高校のほうではインターンシップ等も行ってないと思いますので、高校で途切れてしまうのかなというふうに感じています。県内就職率という目標値もありますけれども、他県では県内就職率90%を超える県もあるというふうに聞いており、視察に行っておられるという話も伺っております。ふるさと教育ということですけど、子供のころから地域のお店とか会社を知るということ、あとはそこで働くということをやったり小さいころからすり込んでいくということも大事なのではないかなと思います。そのためには、官民学が連携するということは大変大事だと思っておりますし、先ほど学長も言われましたけれども、リカレント教育っていうところも、やはり今、働いている人たちが学生と一緒に学ぶとか、そういう機会も大変、県内就職率のアップというところにつながっていけばいいなというふうに考えております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、お願いいたします。

○委員 失礼します。私からも産業対策について、意見を申したいと思えます。

我々の林業の分野でも担い手の不足というのが非常に大きな問題になっています。そういった中において、15ページ目から活力ある産業をつくるというところですけども、その中で、所得を引き上げ、若者の雇用を増やしますと、総括のところでもこういった目標を掲げていただいています。我々の分野でもまさにこの所得の問題、また就労環境の問題、こういったことが重要ですので、ここのところを取り上げていただいて対策をとっていただくということで、非常に感謝したいと思えますし、16ページ目以降の各対策がこの目標につながるよう、今後数値目標などを設定していかれると思うんですけども、直結するように目標設定をしていただいて、この分野の推進をぜひともお願いしたいと思っております。

それから次に、非常に細かいことになって恐縮ですけども、17ページ目に林業の振興について書いていただいております。その中で、新規対策として原木需給のアンバランスを解消する新たな製材所の立地・誘致というふうになっておりますけども、原木需給のアンバランスとはどういうことかということですが、今、島根県内、木材生産量も需要量も

非常に大きいものがあります、増えておりますけども、高く売れる製材品の需要が少なく、中くらいや安く売れる分野のほうの木材がたくさん需要があるというような、それがアンバランスということだと思いますけども、少しその辺の表現を、例えば現状と課題の中にもう少し書いていただいて、問題点がどういうことであるかということが、一般の人にも理解していただけるような表記にさせていただいたらいいかなと思います。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

○委員 よろしく申し上げます。私からは主に6章になりますが、心豊かな社会をつくるというところで2点ほどお話をします。

まず、62ページから始まる教育の充実というところで、ふるさと教育を一步進めて、これからの時代を担う子供たちに授けたい資質や能力を意識し、学校と地域が共同して教育活動が進みつつあることは意義があることだというふうに思います。しかし一方で、次世代に担う人材育成ということばが教育の場で頻繁に使われることに少し違和感を覚えています。教育の原点であり目的である人格形成が埋没しないようにと願っています。人格形成は、昨今、荒廃している職業倫理の根っこにもなりますし、目の前の経済成長に終始することなく、未来の島根、100年先の島根が幸せな社会であるように、本質を見きわめて、何を選択していくか、県民一人一人が責任の主体として決断していかれるか、そういった力を、人づくり、教育を大切にしていきたいなというふうに思っています。

また、もう1点は、73ページの自然、文化・歴史の保全と活用というところで、この章立ての中ではこういったことをコンパクトにまとめているのであろうというふうに思いますが、これだけ世界規模で気候変動の問題が大きくなってきてる中で、もう少し島根県がこの世界規模の課題に向けて、多方面で貢献できる将来像が描けたらなというふうに思っています。林業やいろいろなところに触れているかと思いますが、エネルギーの問題や、いろんな部分で、今後細かいところで触れられると思いますが、少しこの73ページは弱いのではないかなというふうに感じておりました。以上です。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

○委員 いろいろな分野の計画がなされておるところですが、自分としては関係ある産業、漁業のことについて少し気がつくことをお話ししてみたいと思います。

先ほど、基本的には所得を引き上げるということになってこようかと思いますが、よく言われるように後継者不足と、そして担い手不足ということになるところでございますが、ここに現状、課題ということで、18ページに水産業については書かれておるところですが、企業的経営の概念ですね、いろんな状況ここに書いてある中で、これを活性化していくようないろいろな制度分野で強化していくということで、このことは大事ではないかなと思います。

それを言うんですけどね、この人口減少ということには、いろいろな分野で減少しておるであろうと思いますが、水産業、いわゆる沿岸漁業、浜の活力がなくなったという大変な、そのようなところに大きな人口減少の原因があるんじゃないかなと思っております。海士町のこと取り上げて言うんでございますが、平成10年のときは、本漁師といいますか、正組合員というのが140人近くいたんですが、今は67名、半数になっているというようなことで、ある時点から、御承知のとおり海士町の場合には単独町制、そして冒頭の御挨拶で申し上げたように漁協も単独を選んだと、単独漁協ということで、基本的には、町と漁業と、漁業の再生なくして海士町の再生はないというような取り組みで、町と漁協が連携して、とにかく町を、持続が可能な町にしていこうというようなことで、御承知のとおり、ほかの分野もあるんですが、今、海士町の人口動態は、自然減はともかく、動態としては、人口2,300の中、1ターンが400人ぐらいおるといようなことです。増に転じておるといことなんですよ。

それをどう持続していくかということがこれからの課題であるわけなんですけど、基本的に沿岸漁業をどう再生していくかということで、ということは、基本的に漁家収入をふやさなきゃならんということが一番大事なことで、そうするにはどうするかということで、いろいろな加工場にしろ冷凍工場にしろ公設民営というような形で、漁家の収入をいかにふやしていくかということを今、力を入れておるところでございます。

そういう中で、後継者というか、担い手も私の場合では、毎年就業フェアに、東京、関西等々に出かけて行って、新たに漁師になる人を連れて帰るといのか、興味ある人を引っ張ってきておるといのが具体的なことで、今そういう、普通一般、先ほど言ったように沿岸漁業といっても、とる漁業というのは不安定であるので、平成13年ごろからイワガキを機械を入れてやっていると。そのことで、今、50万個、1億っていうところの売り上げになってきたんですけど、これ、将来的には400万個、10億円産業にしようということで力を入れておるところなんですけど、そういうことなんですけど、地元の若い人とい



いますか、そういう養殖漁業に携わる人は、どうしてか、いないということで、先ほど言ったように、東京あるいは関西圏等々から担い手を後継しようということで、現在は7人、それから、それらの一般の漁業をする人が4人ぐらいかな、11人ぐらいよそから来て漁業を営んでいるということで、基本的には彼らの所得を上げていって、これなら漁業に携わってもいいなというやっぱりその環境づくりをすることが大事じゃないかなと思います。

そういうことで、一番肝心なのは、浜と、それから行政ですか、うちでいう役場とかのといえますか、密着という言葉はおかしいんですけど、いわゆる連携し合うというか、浜の悩みをやっぱり行政に伝え、そして行政でお手伝いすることは応援していくと、そういう何ていうのかな、やはりきずなといえますか、最近の言葉で言うと、つながりを強くしていくということが大事ではないかなと思います。

そして、どちらも単独でやってきたということは、今、明るい方向に行ってるんじゃないかなというふうに感じます。ほかのところを申し上げるのは失礼かと思いますが、県下一本の漁協ということになってしまうと、組合員の声が届かないとか、漁業の悩み等々が、どうしてほしいというようなことが届かないというようなことがないかなという、新たな場のそういう部分をしっかりとつながっていて、これからの行政と地域の人を力を合わせていくことによって活性していけるんじゃないかなというふうに思っているところです。取りとめない話ですが、以上です。

○会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

○委員 この20ページに観光の振興、そして取組の方向というのが書いてあるんですが、よく考えて書かれている文章だなとは思っております。ただ一つ、外国人の観光客をふやす中で、この年齢層の、幾つぐらいの人をターゲットと考えていらっしゃるのか。私の住んでおります津和野町は、最近若い外国人が少しずつふえてきております。そして、昔でいうカニ族ですね、リュックを背負って。彼らは決して高い旅館には泊まりません。民宿、ユースホステル、そういうところに泊まって、それも民宿でも素泊まりです。お食事はコンビニとか、おむすびを買ってという、そういう滞在の仕方をしておりますので、ここにその年齢的なターゲットを絞らないと、受け入れるほうが、例えば料金の設定もありますし、対応の仕方もありますし、そこがちょっとここに記載されていないのが残念だなと思っております。そして、皆様も御存じとは思いますが、江津市に有福温泉というのがございます。ここ2年ぐらい前まで1人若い方がすごく都会的なやり方で、1日1組か2

組しかとらないという。どっちかっていうと高級志向のやり方で、でもそのときにはすごく予約がとれずにキャンセル待ちといたしますか、そういう方がとても多かったそうです。しかし2年前ですか、廃業されました。ここの温泉というか、有福温泉の温泉はとて面白いし、そして街そのものが昭和の初めぐらいのレトロな、そしてひなびた、だから普通でいうこちらの玉造とか、皆生温泉とか、そういう雰囲気ではなくて、本当に何も無い、でもゆっくりここで何日も滞在してっていう、そういう感じのところなんです。昔は広島に近かったもので、原爆で被災された方たちが治療のために何日も滞在した、そういう場所でございます。

それで、やはりそういう若い外国の観光客っていうのは、津和野でもそうなんですけど、史跡どうこうっていうよりは、自然を求めて、なるたけ田舎、奥へ奥へ歩いているのをよく見かけるんですが。だからPRの仕方なんですけれども、そういうところにそういうお客様を誘導していく、そしてまた有福温泉の近くにも美又温泉もありますし、温泉津温泉も、ここも石見銀山で有名なきに物すごく宿泊客がふえておりましたが、今はなかなか石見銀山に行かれる方も減ってきて、温泉津でお泊まりのお客様っていうのは本当に減ってきているそうです。だから、なんでしたらこういう3つ温泉めぐりというような、そういうプロモーションづくりをして、しっかりとお客様を呼び込む、そういう考えも一つはあるのではないかなと思っております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

では、続きまして、お願いいたします。

○委員 皆さんの話を聞きながら、なるほどな、いろんな考えがあるんだなと非常に思っていて聞かせていただいております。

15年前、飯南町の山碕町長に、内向きの地域づくりと外向きの地域づくりというお話をちょっとさせていただいたことがあって、町長さんは出雲市とか、三次とか、雲南市とか、隣接する町へうちの住民さんの雇用を頼みにとにかく企業さんを歩いてほしいと、そういう話をしたことがあるんです。要は外貨を稼ぐ地域づくりをしてくださいと。そして、飯南町へ住民税を落として、そうすれば、飯南町が少しでも豊かになっていくんじゃないかという話をしたことがあります。地域づくり、私は小さな拠点づくりを今みんなと一緒にやっているんですけども、地域づくりにはやはり内向きの地域づくり、内向きの島根県づくりと、外向きの島根県づくりというのがあると思っています。それで、これを読ませていただく中で、やはり年をとると、アフターサービスがある生活、つながりを重視して

いけるような生活が非常に大事だと思うようになってきます。私たち地域にはどんな人が必要かという、地域課題の解決に向かっていける力強い人が欲しいと思うんです。それは、もともとの住民さんであろうが、Uターンの方であろうが、Iターンの方であろうが、どなたでもいいけれども、やはり地域課題に果敢に立ち向かっていけるような、そういう人づくりをやはりしていきたいと思っています。その中で、別の委員がおっしゃった根っこを支える県民性を重視していく、そういうような島根県民づくりが非常に必要ではないかと考えております。

それから、外向きの地域づくり、島根県づくりのほうなんですけれども、この中で、昔はというか、交流人口を大事にという話だったんですが、今、関係人口づくりということで、やはりこれがすごく私は大事ではないかと思っています。先ほど、杉谷さんのお話とか先生のお話にもありましたが、やはり働きやすい職場をつくっていくには、なかなか厳しいものがあるとおっしゃったんですが、働く若い人たちは、やはりスキルアップがしたい。島根県の企業で働いても、やはり自分を認めてもらいたい、力をつけたいと思っている。その力をつけたいと思う力が、また企業の力になって循環していくと考えております。ですから、社会人教育ですとか、リカレント教育とか、そういうところをしっかりと充実させて循環させていってほしいと思うのと、もう一つ、私も子供たちが3人いますけれども、長男は島根県の大学を出て東京のほうに就職しておりますが、やはり若い人っていうのは、島根県に残りたい人もいれば、反対に自分をいろいろ挑戦してみたいと思って、やっぱり出る、これが若者の特権でもあると思うんです。それを無理やり残れ残れじゃなくて、出たいと思えばしっかり出させて、都会の企業でしっかり働かせて、そこでいい人間関係をつくって島根県に還元してくるような、どういうんですかね、そういう循環をつくっていくと、例えば50ぐらいになったときに、その人の周りにはいろいろな力を持った人、お金を持った人ができてくると思います。それをまた島根県へ返せるような仕組みづくり、そして島根県を盛り上げるような仕組みづくりも片方では大事ではないかなと考えております。

それから、他出した人たち、本当に私の地域も空き家がふえて大変な状況ではありますけれども、やはり他出した人たちを責めるとかじゃなくて、他出した人たちとつながって、その力をどうにかつないで大きな力にしていくような、それこそ内向きの地域づくりの中にも、地域課題の解決に向かっていけるような、それを逆手にとれるような考え方をして進んでいけたらと思っています。以上です。

○会長 どうもありがとうございました。

皆様方の御協力によりまして時間内に本日御出席の委員から御意見を伺うことができました。今、御自身で発言された以外に、他の委員意見を聞いて、ぜひ発言したいことがありましたら、御発言いただければと思いますけども、いかがでしょうか。

どうもありがとうございます。それでは、委員からの意見聴取は、これで終了させていただきたいと思います。

本日、各委員から出されました御意見につきましては、事務局で検討いただき、次の答申で生かしていただければと考えています。

では、いろいろと委員の御発言を伺った上で、知事からコメントをいただければ喜びますけど、知事、いかがでしょうか。

○丸山知事 いろいろなお立場、また視点から貴重な御意見を頂戴いたしまして本当にありがとうございました。まだまだ視点として欠けているところ、施策として不十分なところ、そして、具体策としてこういうことを具体的にやったほうがいいんじゃないかと、リカレント教育っていったところというのは、産業界のニーズ、それから先生方が持たれているスキルときちんとあわせて、どういったものをどういった形で提供するのがいいのかということの橋渡しというのは、行政がやったほうが確かにいいのではないかという気がいたしましたので、具体的な人材育成と企業の人材を高めていくといった取り組みとして考えていかなければいけないなと思いましたし、いろんな欠けている視点、ちょっとこの計画の本体として対応するお話と、恐らく具体的なアクションプランですとか予算事業で対応する話と違っていう形で分かれるかもしれませんが、いろんな形で生かしていきたいと思っております。

1点だけ、ちょっと私がやるように言ったので、一応説明責任があるかなと思いましたので、1点。

美肌観光なんですけど、島根がいいところだということは、すごいシビアにいうと鳥取県でも広島県でも言われる話なので、どこがいいというふうに納得してもらえるかということ、それをいろんな島根県として主張していくっていう形じゃなくても、既にもう、島根県からお金をもらっているわけではなくて、ビジネスとしてやられている化粧品の大きなメーカー、その企業がオーソライズしてくれているというものをまず使わない手はないんじゃないかというふうに思ったところが一つ。そして、観光ではどうしてもまねされる要素が強いんですけども、恐らく、冬場の湿度の高さとか日照時間の短さとかっていうとこ

ろは気象に基づくものなので、他県、ほかのエリアでまねされようと思っても、まねしにくいという意味で、これはうまくいけばの話ですけども、うまくいけば、うまくいっても優位性を保てるんじゃないかといったことを考えてですね。

ただ、御懸念のお話がありました、人の容姿に着目したところというのはいかかなものかという御指摘が当然あるとは思いましたし、自然をもっと生かした隠岐のジオパークですとか、歴史という意味では石見銀山といった、まだ生かし切れてない素材を生かす前にそういうことに取り組むっていうのは、順序がおかしいんじゃないかというお話があるかもしれません。そういった御指摘もあろうかとは思ったんですが、あるものは全部使っていくという意味で、せつかく、人口46番の県として苦しんでいる中で、立派なところが、ある意味こちらが頼んでもないのに全国1位というふうに言ってくれてる、そういうものを使わない手はないんじゃないかといったことで、ちょっと取り組みたいというふうに思っているところであります。そういったことを不快に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、島根県、全国の女性の10%でも目を向いてくれれば大分助かりますので、若干の御異論があっても、そういったことにもチャレンジしてみたいということで取り組んでみたいと思っているところでございますので、今後展開する上でそういったお受けとめがあるということは十分認識しながら、よりよいものにしていきたいというふうに思っております。

それから、若干細かな話になりますけども、説明の補足になりますが、子供さんの医療費の助成の関係で自己負担の話がちょっと今、事務局から御説明させていただきましたが、自己負担というのは、究極は市町村が事業をやられています。最後、個々の住民の皆さんに対して最終的な助成をされているのは市町村がそれぞれやられておまして、それに対して県がどこまで支援するかという構図でございます。

今回、自己負担については、県の助成の制度としては、助成対象にはしていかないという考え方です。公約との関係というのは政治的な話になりますので、これは別のところで御説明しますが、つまり19の市町村の中で、15のたしか市町村は、既に小学校6年生未満のところでもう自己負担なしという制度をやられている。そういった状況に対してその部分を支援をしていくのかどうかという意味でいくと、そこに対する支援をしていくというお金の使い方までは、ちょっと現状、まだまだ厳しいのではないかとということでありまして、自己負担が全部残っているわけでは全くありません。現状では、19のうち15の市町村で自己負担なしの医療費助成が既になされていて、それに対して県とし

てそこに2分の1の補助金を入れていくかどうかというときに、見送っているという状況でありまして、自己負担というものを入れちゃいけないというふうになっているとかということではなくて、そこに対する支援というのを見送っているということで御理解をいただければと、御理解というか、そういう事実としてはそういうことでございまして、県内の市町村、団体数でいえば多くのところは自己負担なし、4市町村については、県の補助制度と並んで1医療機関当たり、通院の場合1,000円、入院の場合2,000円といった金額の自己負担をお願いをしているという形でございます。

ちょっと細かな話と一緒にになりましたけども、我々としてまだ欠けていた視点と含めて御指摘をいただきましたので、今後の再始動に向けて生かしてまいりたいと思いますので、また引き続き御指導いただければと思います。

また、公聴会の関係でも若干、広報が足りなかったところもありますので、次のパブリックコメントにつきまして、きちんと広報をいたしまして、住民の皆さんに実施しているということがはっきりわかるような形で実施をしていきたいというふうに思っているところでございます。

どうもありがとうございました。

○会長 どうもコメントありがとうございました。

この島根創生計画ですが、本日委員の意見を再度聞いていただき、また、パブリックコメント等さまざまな意見を聞いた上で、後は知事の強いリーダーシップのもとに政策が反映されてくるものと考えています。我々も県民の一人として、しっかりと島根県の政策等を理解し、また協力をしながら、よりよい島根、知事が目標としております「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる」について、少しでも協力できればと考えています。

それでは、事務局のほうから他に説明等ありましたら、お願いいたします。

○事務局 先ほど、秦委員様から、特殊出生率、それから社会移動以外の目標値のことについて御意見がございまして、説明をはしょりましたので、少し補足をさせていただきますと、この目標自体は2つ大きな目標を計画本体には掲げておりますけども、その他さまざまな施策ございまして、それに伴います目標につきましては、別途改めましてさまざま設定をいたしまして、それを県民の皆様にもわかる形で提出を、お示しをしたいということで考えております。

ちなみに参考で言いますと、資料4をちょっとごらんいただきますと、この総合戦略に

つきましては、29ページから、実はこうやって30ページ、31ページ、少し見てもらいますと、さまざま各施策で現行のこれは計画ですけども、対策、目標が示しております。こういったようなことを各施策レベルでも施策の達成度合いとかの目標をきちっと示して、達成度合いの管理なども引き続き、次の対策、計画でもやっていく考えであります。以上、補足でありました。

最後に、今後の日程等につきまして、御説明をさせていただきます。今後の審議会の進め方につきましては、今回お諮りいたしました島根創生計画素案につきまして、本日から9月27日までパブリックコメントを行うこととしておりまして、広く県民の方々から御意見をいただきたいと考えております。また、8月29日、9月4日に市町村長との意見交換も予定しております。本日いただきました意見のほかに追加で御意見がある場合には、9月27日までに事務局まで御提出いただきますようお願いをいたします。

次回の審議会は10月上旬に開催をし、財政の状況なども御説明した上で、引き続き御審議いただきたいと考えております。今後、事務局から改めて日程につきましては御案内をさせていただきます。

本日、御発言いただきましたことにつきましては、議事録を作成し、近日中に送付させていただきますので、御確認いただければと思っております。

大変お忙しいところと思いますけども、よろしく願いをいたします。以上であります。  
○会長 それでは、以上で議事終了したいと思います。委員の皆様方につきましては、お忙しい中、御出席いただき島根県のための前向きな御意見をいろいろいただきまして、ありがとうございました。

また、丸山知事初め、島根県の皆様方につきましては、このような機会をつくっていただきまして、ありがとうございました。県、それから我々県民、皆で力を合わせて、島根県のために少しでも役に立てればと考えてます。今後ともよろしく願いいたします。

それでは、きょうの会議はこれで終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。